



新年あけましておめでとぅございませう

公益財団法人 日本殉職船員顕彰会



会長 内藤 忠 顕

潮 騷

第 57 号
令和 7 年 1 月 1 日

公益財団法人 日本殉職船員顕彰会
〒102-0083 東京都千代田区麹町四・五
海事センタービル
電話 〇三・三三三・四〇六六二
FAX 〇三・三三三・四〇六八二

皆さま方におかれましては、おすこやかに新春をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症のリスクは依然として存在しているものの、私たちの日常生活や社会経済活動はほぼコロナ以前の状態に戻りました。当会もコロナによる制約を受けることなく従前と同様の活動を実施しています。

昨年5月15日には第51回目の戦没・殉職船員追悼式を、また、8月15日の終戦記念日には戦没・殉職船員を慰霊・追悼するための献花式を、いずれも神奈川県立観音崎公園「戦没船員の碑」(横須賀市)において開催いたしました。

また、第50回「戦時徴用船遭難の記録画展」を8月17日から26日まで埼玉県・所沢市民文化センター「ミューズ ザ・スクエア」において開催いたしました。

同期間中は、前回に引き続き連日の猛暑に見舞われたものの、約400名の来場があり、多くの方々から高い評価と応援のメッセージをいた

いただきました。

この他、戦没・殉職船員遺族への援護事業、さらには戦没・殉職船員に関するご遺族や報道関係者からの問い合わせなどに積極的に取り組んでいます。こうした活動は、ひとえに皆様方の暖かいご支援、ご協力によるものであり、心より感謝申し上げます。

さて、今年は戦後80年の節目を迎えます。終戦の年に生まれたご遺族も今年は80歳となり、戦没・殉職船員追悼式を始めとする様々な行事への参加も徐々に困難になって来るものと思われまふ。

また、日本の社会全体として見ても、戦争の記憶は年を追って薄れていくことでしょう。

こうした中で、当会の活動も少しずつ変化して来ましたが、これからの世代に戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝えていくためにも、これまでの活動を続けていかなければなりません。

当会は、先の大戦において志半ばで犠牲となられた6万余の戦没船員、海難や労働災害に遭われて殉職された船員の慰霊、顕彰ならびにご遺族の援護、記録画展を始めとする広報事業に一層の努力を続けていく所存です。

皆さま方におかれましては、本年も旧年に変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

終戦記念日献花式

令和6年の終戦記念日献花式は、8月15日(木)、連日の猛暑のなか、神奈川県立観音崎公園「戦没船員の碑」(横須賀市)で、内藤忠顕会長はじめご遺族、前職および現職役員ならびに評議員、海事関係者40人が参列し挙行了した。

献花式は例年どおり日本武道館で行われた政府主催の全国戦没者追悼式の進行に合わせて執り行われた。東京湾口を望む慰霊碑に供花し黙とうを捧げ、戦没船員・殉職船員の御霊の鎮魂と安らかなることを祈るとともに海洋永久の平和を誓った。





おのづかまさとし
小野塚勝俊・所沢市長（右）

戦時徴用船遭難の記録画展は、これまでと同様に貴重な記録画を通して、ご遺族をはじめ多くの皆様に戦時徴用船乗組員の凄絶な実相をお伝えし、戦争の悲惨さを実感していただくとともに、平和の尊さを再認識してもらうことを目的に、日本殉職船員顕彰会が全国を巡回して開催している。

先の大戦で、兵隊や武器・弾薬などの軍需物資、資源などの輸入物資を運ぶため、民間の商船と船員のすべては陸軍、海軍、船舶運営会のいずれかに国の管理のもとに戦時徴用された。殆どの民間の商船や漁船は、丸腰（非武装）で満足の護衛もつかない海上輸送や監視業務等に従事し、敵機の攻撃や敵潜水艦の魚雷攻撃の絶好の標的となつて、海運・水産で働く6万余人の船員が犠牲となるとともに、商船や機帆船、漁船等約7200隻・880万総トンを超える船舶が失われた。

大阪商船の嘱託画家、大久保一郎画伯は、戦況の劣勢で社船が次々に

撃沈されていった昭和17年（1942）、社長から「失われていく社船を記録に残してほしい」と指示を受け、戦時統制下の厳しい状況の中、生還した船員たちから、沈没する船の様子、船員の遭難状況など戦場の生々しい証言を克明に聞きとって、忠実に記録画として密かに描き残した。

大久保画伯が描いた30号の記録画は、終戦直後のかん口令や復興の混乱の中で行方不明になっていたが、昭和57年（1982）に発見され、これを修復し37点の記録画を公開することとなり、昭和57年（1982）12月、東京日本橋の三越本店で第1回記録画展を開催した。

以来、北海道から沖縄まで、今回で32カ所・50回目、埼玉県では、5年ぶり2回目の開催となった。



大阪商船貨物船「ありぞな丸」宣伝用絵葉書の原画を前に、昭和31年（1956） 67歳

戦時徴用船遭難の記録画展は、これまでと同様に貴重な記録画を通して、ご遺族をはじめ多くの皆様に戦時徴用船乗組員の凄絶な実相をお伝えし、戦争の悲惨さを実感していただくとともに、平和の尊さを再認識してもらうことを目的に、日本殉職船員顕彰会が全国を巡回して開催している。

先の大戦で、兵隊や武器・弾薬などの軍需物資、資源などの輸入物資を運ぶため、民間の商船と船員のすべては陸軍、海軍、船舶運営会のいずれかに国の管理のもとに戦時徴用された。殆どの民間の商船や漁船は、丸腰（非武装）で満足の護衛もつかない海上輸送や監視業務等に従事し、敵機の攻撃や敵潜水艦の魚雷攻撃の絶好の標的となつて、海運・水産で働く6万余人の船員が犠牲となるとともに、商船や機帆船、漁船等約7200隻・880万総トンを超える船舶が失われた。

撃沈されていった昭和17年（1942）、社長から「失われていく社船を記録に残してほしい」と指示を受け、戦時統制下の厳しい状況の中、生還した船員たちから、沈没する船の様子、船員の遭難状況など戦場の生々しい証言を克明に聞きとって、忠実に記録画として密かに描き残した。

大久保画伯が描いた30号の記録画は、終戦直後のかん口令や復興の混乱の中で行方不明になっていたが、昭和57年（1982）に発見され、これを修復し37点の記録画を公開することとなり、昭和57年（1982）12月、東京日本橋の三越本店で第1回記録画展を開催した。

以来、北海道から沖縄まで、今回で32カ所・50回目、埼玉県では、5年ぶり2回目の開催となった。

第50回「戦時徴用船遭難の記録画展」を、8月17日から8月26日まで、航空発祥の地・所沢市の所沢市民文化センターミューズで開催した。開催初日、小野塚勝俊・所沢市長が来場され、壮絶悲惨な船員と戦没船の記録画を熱心に見入っていた。連日の厳しい猛暑にもかかわらず、ご遺族の方々をはじめ近隣の市民や遠方からも、400人の方々が来場した。

知られざる民間船舶の悲劇
所沢で開催

戦時徴用船遭難の記録画展



所沢市民文化センター ミューズ

大久保一郎画伯（1889-1976）

明治22年 大阪市富島町（現在の西区川口）で生まれる。

大正15年 大阪商船（現株商船三井）の嘱託画家に採用、初仕事に南米移民船「らぶらた丸」を描く。以後、同社の宣伝用絵葉書、航路案内、広報誌、ポスターの絵とデザインを担当する。

昭和17年 大阪商船、岡田永太郎社長の命により、同社の戦時徴用船最期の記録画を描き始め、終戦までに油彩30号約80点を制作する。

昭和51年 1月19日自宅にて死去、享年86歳。

昭和57年 旧大阪商船本社倉庫で大久保画伯の遺作37点が発見され、絵画修復家黒江光彦氏により修復。12月に東京日本橋・三越本店で第1回記録画展を開催。6日間の来場者は9000人。

記録画から受けた感動・感想

来場者のうち 106 人の方々からアンケートとともに記録画から受けた感動・感想が寄せられた。その中から、来場の動機と感想の一部を紹介します。

10代の驚き

■男性（7歳・さいたま市）
友人、知人、家からに聞いてこうげきしてはいけない「ぶえのすあいれす丸」をこうげきしたのが、だめだとおもいました。



記録画展に来場された、しばやまさひこ柴山昌彦衆議院議員

■男性（所沢市）ポスター（会場）
早く戦争をやめれば人も死ななかつた。

（母）戦争の絵がリアルで改めて、怖さを知った。戦後79年、もしも戦争がなければ多くの人命と船が残ったと思う。現在が平和で良いと感じました。

■男性（所沢市）その他（SNS）
戦時中に徴用された民間船、船員についての理解を深められた。

写真ではなく、絵を主として展示することで、より悲壮感や残酷さを感じられた。テレビ等では戦時徴用船、船員についてあまり取り上げられないことが多いので、こういった企画を開催していただけるのはとてもありがたいと感じた。

20代の学び

■男性
ポスターを見て（広島原爆資料館）
中学生のころから戦争の本等を読んできました。

最近、「海なお深く」という本を読んでいたのが、徴用船のことに興味がありました。絵ではありますが、最後の瞬間を見ることはなかなか



村田航志朗くん親子

か無いことだと思えます。大変貴重な体験になりました。戦時徴用船のことは学校でもテレビでも取り扱われていないところをあまり見たことはありません。このような展示などによって出来るだけ多くの日本人の方々に知って頂ければと願っております。

■男性（所沢市）ポスター（会場）
きめ細やかに説明していただき、より一層理解が深まりました。今まで、自分が知らないことが、この展示で沢山わかりましたが、風化させないよう学び続けてまいります。ありがとうございます。

■女性（所沢市）ポスター（会場）
記録画がこうして残っていて本当

に良かったです。戦争がいかに愚かな事なのかを、後世に伝え続けてほしいです。もう二度と繰り返さないために。

■男性（所沢市）ポスター（会場）
私の祖父は商船ではないですが、先の大戦で戦艦に乗っていました。祖父は幸い助かったのですが、多くの人々が亡くなったと聞いていたので、是非戦争の歴史を勉強したいと思い参加しました。



ぶら志る丸



ながすまさや長主正也さん（東京都葛飾区）が作製した、記録画に描かれている船舶（15隻）と戦時中の大阪商船所属船舶の模型。（縮尺 1/2000）
長主さんのご協力により、記録画展会期中に展示した。



30代の印象

■女性（愛媛県松山市）

友人、知人、家族から聞いて

私には92歳の祖母がおり、太平洋戦争開戦直前に父親の転勤で上海に転居した。祖母一家は大洋丸という船に乗ったらしく、祖母に言わせると「ちゃんとしたホテルのような立派な船だった」ということだが、祖母一家が乗った数年後、その船は徴用され沈んだ。92歳の祖母は、さすがに今は少々記憶があやしくなっているが、もう少し前に話を聞いた時は「立派な船だったけど、沈められちゃったのよ」とよく言っていた。それだけ記憶に残っていたのだろう。祖母一家は戦時中に上海から大陸伝いに朝鮮半島まで移動し、釜山港

から船に乗って帰国したという。当時の話を、祖母は「とにかく大変だった」と言うだけである。

そういったことを展示を見て思った。日本海側の攻撃が（比較的）少なかつた理由もスタッフの方から受けて知った。来られて良かったと思います。

■男性（所沢市）ポスター（図書館）

日本の国も戦争をしていたという実感がもてません。忘れてはいけないことと思うのですが、まるで記憶喪失のように戦争のことを知りません。周りに戦争の痕跡もありません。今日は何かを思い出すために来たよ。うな気がします。

係の方にお話を伺い、ここにある絵が戦時中に秘密裡に描かれたものであると知りました。作者の大久保一郎氏は家族にも絵のことを話さず、その期間げつそりとしておられたと。命を削って描かれ、修復を経ている絵が目の前にあるということが、何か不思議な感じすらしました。今日はありがとうございました。

■女性（横浜市）「潮騷」を読んで

戦時中に徴用され空母になった「あるぜんちな丸」のことを調べている時に、画集「戦時徴用船の最期」を知り、顕彰会への寄付で画集をお譲り頂きました。今回の展示で、実際に記録画を見ることができ良かった

です。

父が定年まで造船会社に勤めていたこともあり、また私自身も幼い頃から港町横浜で育ったこともあり、船は身近に感じられるものでしたが、戦時中に徴用船では軍人だけでなく、多くの船員の方々が亡くなられていることは大変悲しく思います。船が攻撃され沈んでいく中で、「ぶらじる丸」の乗組員が船客に救命ボートの席を譲り、海に飛び込む姿を描いた絵画は、最も印象にのこりました。

今後も、戦争の記憶継承のため、戦時徴用船遭難の記録画展の開催を長く続けて頂けたらと思います。

■女性（所沢市）

会場に来て

戦争についての解像度がとても低い世代の為、絵を見ても分からないことが多かったが、丁寧に説明していただき、より深く展示を見て回ることができました。過去があつて今があること、自分が日本人であることに、もう少し意識をもって生きてみようと感じた。

40代の感想

■男性

顕彰会のHPを見て

全日本海員組合から出版された「海なお深く」を読んで戦時徴用船のことを知りました。戦時中多くの船員がなくなつたことは知っていま

したが、その背景にあったことや当時の詳しい状況などを、もっと知りたくなり、大久保一郎氏の絵画を見に来ました。我々はこの歴史を知るべきだと思います。

■男性（所沢市）

会場に来て

民間の、それも船舶が多く犠牲になつていくことを知った。戦争はダメですね。

絵が上手で臨場感があつて、当時の様子を想像でき、貴重な機会となりました。やっぱり戦争はダメです。

■男性（東京都千代田区）会場に来て

民間の船員、船舶が戦時法や会社の命により、戦争に動員され犠牲となつた史実を克明に伝える大変貴重な絵画展であつた。





50代の想い

■女性(東京都) 顕彰会の潮騒を見て

広島で開催された展覧会で初めて拝見し、今回で2回目になります。あらためてこの様な絵を描き続けた大久保画伯の力量の凄まじさと悲しさを思い涙が出ます。

昨年、台湾で出版された美術書に日本の戦前のポスター芸術として大久保画伯の船舶のポスターが多数収録されているのを見つけ、そこで初めて大久保画伯が本来描いていた、輝きに満ちた船を見るのができました。夢と希望と憧れにあふれるポスターの船が、わずか十数年後にこの様なすごい目にあわれ、美しく力強い船員の皆さんが犠牲にされた。この落差に恐ろしさを感じます。どうか50年、100年後までこの絵を残してください。

■男性(所沢市) 会場に来て

昭和の戦時下の海での様子がリアルな絵画によって、とても分かりやすく表現されているのが良かった。今、日本は戦争もなく平和で平和ボケしている感じがしました。

そんな中、自然災害や人災などが目立つ世の中のような気がします。人の心も病んできているような社会に感じます。

こういう企画を若い人にも知ってもらい、自分らは恵まれたいい時代に生きているということを実感していただき、これからの日本をよりよいものにしていってほしいです。日本の未来を造っていくのは若者たちなので。

■女性(神奈川県川崎市) ポスター(神奈川県平和記念会館)

祖父が徴用船舶長として勤めておりましたが、終戦の1か月前に殉死いたしました。祖父の海上での様子や空爆の様子を知る手立てが今までありませんでした。今回、本絵画展を拝見し、海上輸送の厳しい任務と戦争の実態の一部を絵画により、垣間見ることが出来ました。

遺族として記録の少ない祖父の戦死は大変もどかしく、次の世代に行くにも苦慮しておりました。

戦時、海上での様子を臨場感のある絵画を通じて実感できたことは有難く思いました。終戦時商船大学生

であった父が、別の道を選ばず海運に生涯の職を決意した心情も理解できたように思いました。

このような展示が広く多くの人々に知られ、訪れられる機会となりますよう望んでおります。

■女性(所沢市) ポスター(会場)

戦争について知らないことが多過ぎます。日常生活では忘れがちな戦争ですが、せめて毎年8月だけは当時の方々に思いを寄せる時間を持つてみたいと思います。この様に残されている絵も初めて知りました。胸が詰まります。

■男性(埼玉県上尾市) 顕彰会のホームページを見て

NHKの特番で記録画を拝見したと思っっていて、ようやく実現しました。

先日、観音崎の戦没船員の碑をお参りしてきました。設計者の吉村順三氏の作品を見て回っていて、下調べして貴会の追悼式のことを知りました。

貴会が記録画を巡回して展示してきたことは知られてないと思われ、SNS等、WEBメディアでの取組をもう少し強化した方が良いと思われました。いわゆる「戦争画」(学術的には「戦争記録画」)における位置付けも不十分に感じられ、米政府から「永久貸与」された戦争画

を保管している東京国立近代美術館での展示も検討してほしいです。

■女性(所沢市) ポスター(会場)

いろいろと学ぶことが出来ました。関わっている方々の思いを思うと、とても苦しく思います。絶対にこの様な事が起こらない時代になくてはと思いました。

■男性(東京都港区) 勤務先の社内広報を見て

船舶に関わる仕事の為、首都圏開催の際はなるべく訪問するようにしています。

毎回、迫力のある絵に圧倒され、平和と安全に思いを馳せます。模型の展示など新しい工夫もあり、良かったと思います。





谷水一雄さん (右)。田中善治船長 (左)

■谷水一雄さん (NSユナイテッド海運相談役)

こういった記録画が、その当時、マル秘で描かれた経緯や、時が経ってからの発見の話、また、関係者の証言など大変興味深く伺うことが出来ました。やはり、何かに記録として残しておく方法はないのかなあと、あらためて感じるところです。対馬丸など被害にあった船に乗っていますが、徴用船など、それを動かしていた船員はあまり語られないのが現状です。どちらも同じ民間人ですが、船員はエッセンシャルワーカーとは聞こえはいいですが、どうも扱いに、バランスがとれてない。そんな気がします。

■男性 SNS Xで

大久保画伯の作品は図書館の画集等で見てはいたが、画そのものを目の当たりにすると、やはり突き刺さるものがある。日本帝国海軍を手放しで評価できないのがこうした面。何度か訪れた神戸の「戦没した船と海員の資料館」の記憶も蘇った。

■女性(所沢市)ポスター(会場で)

詳しい説明ありがとうございます。戦争は本当に悲しみしか残らないです。これからも反対する心を忘れずにいたい。活動されていること、頑張ってください。

■男性 SNS Xで

戦時下の民間船の犠牲と、徴用により民間人が犠牲になった大戦が余り伝えられないのが残念です。

■女性(所沢市)ポスター(会場で)

戦争映像にかかわった者です。資料集めによく苦労したので、この様な絵はとても素晴らしいと思います。

■女性(所沢市)ポスター(会場で)

他の用で来たミューズでしたが、展示に気づき見させていただきました。貴重な絵画だと思っただけでもっと色々な方に見ていただけたらと感じました。

60代の憤り

■男性(埼玉県飯能市)

友人、知人、家族から聞いて迫力ある絵画、徴用船の壮絶な最期を伝える大変貴重な記録。爆発の轟音や悲鳴が聞こえて来るようでした。映像も勉強になりました。現在においても、シーレーンの安全は日本にとって必要不可欠です。改めて海上輸送の重大さを認識いたしました。ありがとうございました。

■女性(所沢市) 会場に来て

こういうことがあったとは全く知らなかったのが驚いた。絵のどれにも深い思いが込められていて圧倒された。こういうたくさん犠牲者の上に今があるのだなと思った。戦時中の日本人、船員の方の精神性の高さ、強さ、純粹性に感じ入った。戦争の悲惨さを痛感した。

■女性(所沢市)ポスター

今、日本に必要な展示会だと思っただ。多くの場所での展示、多くの人に見てほしいと思った。

■女性(所沢市)ポスター

戦地の兵士達が、あるいは日本国民が切望した物資を輸送していた船が、米軍の強大な軍事力によって、いとも簡単に撃沈されて、届かなかったことがとても悲しくなります。6万余りの船員の方々の命も失

われてしまったことも、そんな虚しい戦死があった事を、悲しく深く胸に響きました。

シーレーンの確保の検討、輸送力の確保の検討が何より大事であったのに、「やらねばならぬ、何とかなる」ということで開戦してしまっただ過去の過ちを、今後絶対にしてはいけないと、いつも思っています。

■女性(埼玉県入間市)ポスター(入間市図書館)

戦争はあつてはならないのに、今なおなくなることはありません。戦争の悲惨な事実を残し語り伝えていくことは、とても大切だと思います。もっと若い人にも見てもらいたいです。これからも、この活動を続けて行けるよう願っています。





■男性（茨城県土浦市）

顕彰会の「潮騒」を見て

シーレーン防衛に無関心なのは戦後からずっと変わってない。多くの戦訓があるにもかかわらず、まるで進歩がない。先行きが多難。

■女性（所沢市）

会場に来て

貴重なビデオ、画の数々を拝見できて良かったです。この時期には必ず歴史を振り返り、現在の平和をかみしめ誤りのない未来を構築できるように、戦争関連の展示を見ることにしています。

■女性（所沢市）ポスター（会場で）

戦争という原爆。陸上戦。〇〇島の戦いなどは、毎年テレビ等で

ドキュメントとして放映されているが、船舶についての海上戦はほとんど知らなかったです。だから衝撃的で、沈んだ船の数に涙が出ました。

小さな船も、原爆の数の多さには差がありますが悲劇のレベルは同じです。こんなことがあった事。もっと広めていくべきと思いました。

戦争はやってはいけないということとをあらためて思いました。

■男性（千葉県鎌ヶ谷市）

顕彰会のホームページを見て

悲しい、悔しい、残念
今も危機に直面している船員がいること、それでも逃げることなく我々の生活を支えてくれていることに感謝します。

■男性（所沢市）

友人、知人、家族から聞いて

戦争に向かいかねない時勢の中、戦争とは、現場はどういうものなのか感じるために来ました。

軍人とは違う民間船員の心意気を感じる事ができたのが、特に良かったです。

■女性（所沢市）

会場に来て

写真よりも、フィルムよりも心に突き刺さってきます。

1枚では、かなりの説明がいろいろありますが、これだけそうとうと、フィルムを見ているようです。しかし、

フィルムより思いが詰まっていると思いました。

■男性（埼玉県新座市）

友人、知人、家族から聞いて

第一次世界大戦において独Uボートの英国への海上封鎖を見ていて、日本海軍は米国による潜水艦による、民間船舶への攻撃を十分予想した筈でありますのに、何とも情けない。日本は島国ですので、今後とも未だまで続く問題なのでしょうか。

今回油絵で、個別の船名を知る事になり、数字以上の当時の状況を教えられました。

■男性（所沢市）

友人、知人、家族から聞いて

絵画の生々しさに驚きました。戦時中の船員の方々の悲惨さと、それでも頑なな思いで輸送に命がけで事に当たられた事実には頭が下がります。

■男性（所沢市）

友人、知人、家族から聞いて

貴重な展示ありがとうございます。新橋に通勤しておりますが、近年は駅頭で港湾労組の方々の活動（街宣、ビラ配り等）が増えてきました。

太平洋戦争時、徴用され命を落とさざるを得なかったのが船舶労働者の皆さんであった事もあり、戦争の近づく音を敏感に感じておられるが

故であろうと考えております。

■女性（所沢市）

会場に来て

こんなにたくさんの方々の戦時徴用船の絵を描いた方が、いらしたことを初めて知りました。当時の緊迫した空気が伝わってきました。

■男性（埼玉県入間市）

会場に来て

隣の会場で戦争展をやっており、数日前に広島平和公園に行ったばかりなので、深く考えさせられた。

■女性（所沢市）

会場に来て

こんな絵が残されているのを初めて知りました。戦争の悲惨さを多くの人に知ってもらうためにも全国で開催してほしいです。





70代の怒り

■男性（埼玉県狭山市）

顕彰会の「潮騒」を読んで

観音崎公園の追悼式には、何回か出席させていただいたのですが、今回の大久保先生の画展は初めてでした。となりの狭山市に住んでいますが、ので、良い機会と思い、拝見させていただきました。

私の大叔父は、昭和19年10月フィリピンで戦死しました。大連汽船「東崗丸」の船長をしておりました。山形県の農家に生まれ、わずか46年の人生でした。

あのような戦争を二度と起こさないよう、平和な時代が続くよう願っております。全ての人が幸せな人生

を全うできますように。

■男性（埼玉県入間市）

ポスターを見て（図書館で）

とても貴重な展示会であると思う。中国との戦争（事変）だけでハバツテいて、戦争のこれ以上の遂行は不可能だと痛感していたのにやっちゃった。実に愚劣であった。

国民の犠牲を強いるだけの無能な指導部は糾弾されてしかるべきです。国民は二度とこういった事態を引き起こさないように政府を監視しておく必要があります。

現在の日本においても海上輸送の任にあたっておられる船員の方にはただ感謝いたしております。家族を日本に置いて長期間留守にしておかなければならない苦勞はいかばかりかと存じます。

この展示会を開催していただき有難うございます。

■女性（所沢市）ポスター（会場で）

「我々の死を無駄にしないで…」とは、よく聞いたりするが生々しい本当の姿（絵画）を見ると、戦争を知らないで育った我々が出来ることは何かと、考えさせられる。と同時に不甲斐ない思いにさせられる。

私が今出来ること（ささやかなこと）を、自分なりに続けていけたらと思う。

■男性（所沢市）ポスター（会場で）

神戸商船大卒ですが、在学中全く教材とならなかつた悲劇をゆつくり見ることが出来有意義でした。

再び有事が起きた場合、外国人船員主体の日本商船隊が国の為だけだけ貢献するかは非常に不安です。これは某海運会社が韓国人船員を乗船させ始めたことから、続いてきた不安感ですが。

■男性（さいたま市）

毎日新聞のイベント情報で

「暁の字品」の本を読み、田尻中将が船舶工兵（船員）の重要性を大本営へ訴えました。しかし、軍部は無視し戦時の後半からその重要性を認識しました。すでにその対応は手遅れ、多くの民間船員の犠牲があった事を、この記録画展等で再認識しました。

■男性（所沢市）ポスター（会場で）

戦時中にこれほど多くの船が、それも民間の船が徴用され、攻撃されて沈められていたとは、知らなかった。人や物の損害も大変なものだと思ふ。

戦争さえ無ければ、戦争をしてはいけない日本国憲法の第9条の精神を守るとともに、この精神を世界中に広めていかなければならないと思ふ。

戦争は殺人と破壊だけで、悲しみを残すだけだ。

■男性（所沢市）

友人、知人、家族から聞いて

戦争の悲惨さが最近報じられない状況になっていきます。

そんな中で事実を正しく分かりやすい形で伝えることが大切だと思います。

■男性（所沢市）

友人、知人、家族から聞いて

戦争は本当に惨いことです。第二次世界大戦は記憶に残しておくものではなく、語り継ぐもの。

船員の皆さんが、語りで残した絵は日本国中に展示して、語り継いでいってほしいです。





■男性（所沢市）
友人、知人、家族から聞いて

友人からの勧めで来た。終戦後生まれ（昭和22年）の為、戦時中の話はあまり解からないが絵画を見て少しなり理解できた。平和を願う。

80代の嘆き

■男性（所沢市）
ポスター（所沢生涯学習センター）

昭和19年3月に米国潜水艦の魚雷攻撃を受けて沈没した、陸軍輸送船に乗船していた戦没兵士の遺族です。当時、同船の沈没と2千人を超える兵士、船員の死は軍の機密とされて、私も遺族が父の最期の様子を多少とも知ったのは、昭和の時代が終わろうとしていた昭和63年の夏で、NHKの戦争ドキュメンタリー番組の中のことでした。

戦争中に大阪商船と大久保画伯が本展で公開されている絵画作品を作るにあたっては、大変な苦労と強い覚悟があった事と思います。アジア・太平洋戦争の実態を伝える本展を引き続き各地で開いていただくことをお願いします。

■男性（東京都世田谷区）
友人、知人、家族から聞いて

今まで水交會、その他軍関係の機関主催の講演、出展などを拝見して来ましたが、今回の様な船関係（民間）の展示会は初めてでした。軍の輸送、重要物資、復員者の輸送などで正に大活躍された諸先輩方のご奮闘、ご精勵振りを拝見し、大変感動いたしました。軍関係が主役になりがちですが、この輸送という大きな、そして重責あるお仕事を立派にやり遂げられ、または戦没された皆々様に深い敬意と感謝の念を捧げます。もっとももっとこういう皆様のことを国民各位に知ってもらいたいものです。その意味でも主催された皆様の御尽力に感謝いたします。現役時大手商社に勤務し船積みのお名前も良く知っており懐かしさで一杯です。

■女性（所沢市）
会場に来て

本当に戦争は嫌です。

この展示を広く若い人達にも見ていただきたいと思えます。これを長い間、顕彰会の方々が引き続いてやっていることは、大変立派なことです。どうぞ長く続けて行かれます様、皆様のご健勝をお祈りいたします。

■男性（埼玉県入間市）
友人、知人、家族から聞いて

以前から、この絵画展があるのを承知していたので、いつかは見たいと思っていたが、隣接市で絵画展が開かれたので来しました。広く世間の人々に見て頂けるよう、

今後も巡回展を開催してください。
元船員

■女性（東京都葛飾区）
友人、知人、家族から聞いて

戦争によってこんなにも船が沈められたことは、驚きです。今もあちこちで戦争があります。早く終えることを願うばかりです。

■男性（所沢市）
友人、知人、家族から聞いて

「徴用船」という言葉を初めて知りました。
太平洋戦争の際の記録は様々な形態で遺されていますが、船の最期の記録は少ないと思ひ、絵画としての記録は貴重なものと感じました。



海の日清掃・献花式

横須賀海洋少年団 観音崎公園 戦没船員の碑



献花式、黙とうを捧げる

令和6年7月28日(日)、横須賀海洋少年団「海の日」行事として、恒例の神奈川県立観音崎公園「戦没船員の碑」清掃と献花式が行われた。連日の酷暑にもかかわらず、観音崎公園に集まったのは、横須賀海洋少年団、大和海洋少年団、指導者、保護者、顕彰会の事務局が加わって、総勢20人で汗だくになりながら、「戦没船員の碑」周辺の草刈りなどの、清掃を行った。(ガールスカウト神奈川県第62団は、都合により不参加。)

猛烈な暑さの中、熱中症を予防するため、指導員から「適切な水分補給を行い、熱中症にはくれぐれも注意すること。清掃中危険なことや何か気が付いたことがあったら、積極的に周りと声を掛け合い、情報を共有すること。」との指示のもとに、団員や参加者の皆さんは、元気に清掃を開始した。

例年のことだが、「戦没船員の碑」の周りは木々が生い茂り、特に「御製碑」「御歌碑」の周りや「行幸啓お成りの碑」付近のスロープは落ち



清掃を前に、あいさつする道家団長

葉がいっぱい。また、「行幸啓お成りの碑」「昭和天皇皇后両陛下行幸啓記念碑」の周りの舗装されていないところは、海の日清掃の時期には雑草が勢いよく伸びている。子供たちの安全性を考慮し、指導者、保護者の皆さんが、草刈り用の鎌を使って、きれいに草刈りを行った。各々が、公園を使用する人、碑に祀られている戦没・殉職船員のことを考え、集中して清掃を行った。周りがすっかり清められ、「安らかにねむれ わが友よ 波静かなれ とこしえに」と刻まれた碑文石に全員で黙とうを捧げ、一人ずつ白菊を献花した。





「海の日清掃」に参加した子供たちに感想を聞いた。

■村田航志朗くん (小学二年生)

観音崎公園に行つて、落ち葉を拾つて袋にいれた。公園がきれいになりました。スッキリしました。

■島田泰聖くん (小学四年生)

暑くて大変だったけど、みんなで掃除をして楽しかった。

■吉川綾香さん (小学五年生)

とてもつかれましたが、なんだか楽しかった。少しさっぱりした気分になりました。

■吉川 涼くん

腰が痛くなるほどの重労働で何度も水分補給をしましたが、多くの船員が眠っているこの場所を、清掃出来て良い体験ができたと思いました。

**ご協力
ありがとうございました**

横須賀海洋少年団の「海の日」清掃活動に参加した団員の皆さんに、感謝の記念品を今回もたくさんご提供いただきました。子供たちは大喜びで「ありがとうございます」と声高らかにお礼を述べていました。ご提供いただいた会社、海事団体は次のとおりです。

日本郵船・商船三井・川崎汽船・日本船主協会・大日本水産会・日本内航海運組合総連合会・日本海事広報協会・日本水先人会連合会・海技教育機構・日本水路協会・海技教育財団・全日本海員組合・全日本海員福祉センター(順不同)



殉職船員 遺族援護について

日本殉職船員顕彰会では外航船・内航船・旅客船・港湾船等の船員として就労中、海難など職務上の事故により死亡した船員のお子さんに対し、義務教育、高等学校を修了するまで援護金として一人月額8千円を支給しています。

また、小学校、中学校、高等学校に入学した場合に、それぞれ1回に限り記念品を贈呈しています。

詳細については、当会事務局までお問い合わせください。
(電話03-3234-0662)

ご遺族からのお便り

■織田幸恵さん (広島県)

いつもありがとうございます。先日、17歳の誕生日を迎えました。優しい子に育ってくれて、みなさんに感謝です。

■佐藤亜希さん (青森県)

10月は文化祭など学校行事がたくさんあるので毎日遅くまで準備を頑張ってきているようです。観に行くのが楽しみです!!
いつもありがとうございます。

お知らせ

第52回

戦没・殉職船員追悼式

日時 令和7年5月14日(水)
午前11時 開式(予定)
場所 観音崎公園(横須賀市)
「戦没船員の碑」にて

交通

①京急浦賀駅、JR横須賀駅から観音崎行き京浜急行バス乗車。
「観音崎」バス停下車

②午前9時から11時10分まで『観音崎』バス停から式典会場まで無料マイクロバスで送迎します。
*乗用車による式場乗入れはできません。

※式典には、全国の遺族、関係者の参列をいただいています。ご案内状の発送は4月上旬を予定しておりますが、ご案内を差し上げない方々も自由に参列できます。

※式典会場は屋外となります。近年の温暖化の影響で晴天の場合は気温が高くなることが予想されます。暑さ対策として、帽子・日傘・水等をご用意ください。

※式典は雨天でも行いますので、雨具の用意をお願いします

皆様のご厚情に感謝申し上げます

令和6年6月28日以降、令和6年10月31日までの間に、次の方々に新たに協賛会員として加入いただきました。

また、次の皆様からご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。

当会は基本財産の利息収入、寄付金、海運会社・水産会社および関係団体等の賛助会費・補助金ならびにご遺族や関係者の賛助会費・協賛会費により運営されております。

会費は3種類あり、賛助会費法人 1口 10万円・賛助会費個人 1口 1万円・協賛会費 1口 3千円で、それぞれ年1口からお申込みいただけます。

平成23年4月1日に「公益財団法人」に認定され特定公益財団法人に該当し、平成23年10月27日に「税額控除対象法人」の証明を受けました。

これにより賛助会費・協賛会費を含む当会に対する寄付は税制上の優遇措置が認められることになり、確定申告を行うことにより、「所得控除」もしくは「税額控除」が受けられます。

なお、当会は消費税の免税事業者であるため、インボイス(適格請求書)発行事業者ではありません。

新たな協賛会員

(順不同)

小林 弘様 (兵庫県神戸市)

山口 伸子様 (大阪府豊中市)

追悼式献花料

山本 隆様 (山口県下関市)

終戦記念口供花料

多胡 明美様 (東京都小金井市)

一般寄付金

(順不同)

石井康一郎様 (神奈川県横浜市)

奥平 安子様 (東京都中央区)

神戸港を考える会代表 角本 稔様 (兵庫県神戸市)

知られざる民間船舶の悲劇

戦時徴用船遭難の記録画展

寄付金

(順不同)

岡野内俊子様 (神奈川県横浜市)

重田 育輝様 (大阪府羽曳野市)

久野 重幸様 (東京都足立区)

山本 学様 (東京都足立区)

(株)芙蓉書房出版 奥村侑生市様 (東京都新宿区)

木下 恵介様 (神奈川県横浜市)

太仲 勇治様 (埼玉県飯能市)

渡邊 英和様 (埼玉県入間市)

植之原 碧様 (愛媛県松山市)

浅田 衛様 (埼玉県所沢市)

松嶋 洋明様 (東京都港区)

知られざる民間船舶の悲劇

大久保一郎画伯遺作

第51回

戦時徴用船遭難の記録画展

清水で開催

静岡市清水文化会館 マリナート

9/5~9/15

入場無料

■会期

令和7年9月5日(金)から9月15日(月)まで

(9月8日(月)は休館日)

・開館時間は、10時00分から17時30分まで

・初日の9月5日(金)は、13時00分開場

・最終日の9月15日(月)は、16時00分に閉場

■会場

静岡市清水文化会館 マリナート

1階 ギャラリー

静岡県静岡市清水区島崎町214番

■主催

公益財団法人 日本殉職船員顕彰会



魚雷攻撃により棒立ちとなって沈没する「ぶら志る丸」